

令和 6 年度市長との意見交換会での意見に対する 現在の状況について

テーマ「教育」「駅周辺整備」

(1) 生石研修センター

ご意見	現在の状況
教育振興基本計画作成について、総合教育会議の構成員に学校現場の人は入るのか。	【教育部】 総合教育会議の委員のメンバーは、元教育者、医療関係者、文化関係者などで構成。 教師、校長、保育園長、大学教授、PTA や学校関係者、一般公募委員で構成した検討委員会でも協議した。 なお、第 4 期高砂市教育振興基本計画は、令和 7 年 2 月に策定した。
不登校児童生徒のサポート体制として、プロの人がどれほどいて、どれほどの人数の生徒を見ているのか教えてほしい。	【教育部】 不登校問題等相談員を教育支援センターのびのび教室に 2 名、サテライト教室に 4 名配置し、53 名の児童生徒の支援や相談に対応した。また、県の研修等を受け、専門性の向上も図っており、今後も継続して、不登校児童生徒や保護者に対応していく。
JR 曾根駅について。エレベーターと階段はつくが、エスカレーターはなしということではよかったか。	【都市創造部】 新たに整備する J R 曾根駅の自由通路にはエスカレーターは設置しない。階段とエレベーターをご利用いただきたい。
JR 曾根駅の改札について。改札はひとつしかないのか。	【都市創造部】 新たに整備する自由通路の北側の 2 階部分に新しい改札口を設置する。改札口は 1 箇所です詳細設計を進めている。
現場の学校でいかに不登校の子を出さない教育をするかの方が大事だと思う。教員不足の問題、指導内容も以前に比べたら随分増えている。現場の教育施策をどのように考えているか。	【教育部】 スクールカウンセラーを県費・市費併せて 11 名配置し、相談支援にあたっている。また、スクールソーシャルワーカーを 6 中学校区に配置し、相談支援体制の充実を図っている。併せて、「不登校ほほえみサポートプラン」を改訂し、各小中学校に周知した。
給食費の無償化は考えていないか。	【教育部】 無償化すると、年間数億円かかる見込み。ほかに先行してすべき事業がある。小中学校の校舎が老朽化している状
給食費の無償化のほかに優先すべき事業とはなにか。	

ご意見	現在の状況
	況もあり、こどもたちの安全な教育環境をまず優先したい。国や県に給食費の無償化について要望している。国や県の動向を注視していく。
学校給食をおかわりすることについて、時間内に食べきれなかったら3日間おかわり禁止とか、あるいは量を半分にするとか、そういうことが現場であるらしい。同じ給食費を払っているのに不公平。	【教育部】 一人当たりの配膳量は平等であるが、一人一人が無理をせず食べられる量に応じて、喫食量の調整を行うようにしている。
昔はなかった不登校が今は増えている。こどもというのは社会の状況の反映だと考える。市長の政治家としての考え方、高砂市をどういう社会にしていきたいのかお聞きしたい。	【教育部】 不登校対策マニュアルに基づき、担任、学年、不登校担当教諭、養護教諭等による組織的体制を作り、チームで関わることで、児童生徒の心身の状態の把握に努め、早期発見・早期対応を図っている。また、各小中学校に不登校児童生徒支援員を1名配置し、個に応じた支援を行うとともに、教員と連携して、情報共有を密に行っている。
教育現場の人手不足は深刻で現場の先生は疲弊しきっている。国や県に頼らず、市の予算で人手不足を解消し、現場の教員を増やす、手伝いできる人を増やすなどの施策をぜひお願いしたい。	【教育部】 現在、スクールカウンセラー11名（県・市）、スクールソーシャルワーカー5名、不登校児童生徒支援員16名、スクールアシスタント13名、介助員24名、学校看護師2名、学校司書4名、スクールサポートスタッフ16名を市会計年度任用職員として各校に配置している。今後も児童生徒の実態を適切に把握するとともに、適切な指導支援につなげていき、教職員の負担軽減に努める。また、各校の実情に応じて、さらに地域人材を活用することで、教職員の負担軽減を図る。
米田こども園の近くに樹齢300年を超えるほどの大木があった。高砂市の指定保存樹木になっていたはずだが昨年伐採されてしまい非常に残念。	【教育部】 当該樹木については、中が空洞になっており、かなり危険な状態だった。危険を回避するために伐採させていただいた。
高砂駅前の買い物難民問題について、どう思われているか。	【生活環境部】 高砂駅前の商業施設跡地の整備計画の早期公表・早期着工を強く申し入れている。進展があれば、地元及び関係者に適時報告する。 買い物支援については事業者が主体となって移動販売のテスト販売を行う予定。テスト販売を通じて事業者へのヒアリングを行いニーズの把握と事業化を検討する。

ご意見	現在の状況
南海トラフ地震が近いといわれている。高砂市は総合防災訓練を 15 年ぐらい前から毎年実施しているが、内容の見直しをしてはどうか。	【総務部】 総合防災訓練の内容は、各地区と協議を行いながら検討しており、近年では、避難所運営訓練の充実を図っている。総合防災訓練の内容については、今年度、より実用的な技能や知識が習得できる内容へ見直しを行っていく。
耳が悪く、市の放送が全く聞こえない。家の中にいても聞こえるようなシステムも検討してほしい。	【総務部】 防災行政無線の放送内容を自宅内でも確認できるよう、スマートフォンアプリを使った「たかさご防災アラート」を整備し、文字情報に加え音声情報でも放送内容を確認できるようにしている。また、避難情報など緊急を要する放送内容については、聴覚や視覚に障がいがある方などを対象に電話やFAXで伝達するサービスも整備しており、これらの仕組みについては、広報たかさご等を通じて周知を図っている。 引き続き、あらゆる機会を活用しながら、これらの情報伝達手段の周知を図っていく。
排ガスのせいか松村川の桜の木が、大分傷んでいる。綺麗な桜になるよう努力していただきたい。要望なので回答は不要。	(回答なし)

(2) 北浜地域交流センター

ご意見	現在の状況
JR 宝殿駅の北側の対応状況はいかがか。	【都市創造部】 現時点で、新たな整備等の計画はない。
鹿島中学校の通学路について、北浜のトンネルからの安全を確保してほしい。大塩駅曾根線が手つかず。大塩駅周辺の都市計画を姫路市と連携して取り組んでほしい。 回答は不要。	(回答なし)
学校の再編整備について聞きたい。市長と教育委員会とが協力しながら進めていってほしい。	【教育部】 新たな学校づくり推進計画を現在策定作業中である。当該計画では、地域とともにある学校施設の安全安心を確保し、将来を担う児童生徒に最適な教育環境を持続的に提供することを目的に、高砂市における学校の適正な規模や配置、校区再編、計画策定後 20 年間の学校施設の整備基準等を定める計画である。市長部局と連携し検討を進めて参りたい。
災害に強いまちづくりをお願いしたい。かけ崩れの件も工事を早急に進めて頂きたい。	【都市創造部】 令和 6 年度末に県が北脇地区の事業に着手した。今後も適宜説明会を開催するなど県と連携して事業を進めていく。 その他、急傾斜地崩壊対策事業の対象となる地区の自治会に令和 6 年度に事業の説明をした。
じょうとんバスの廃止で高齢者が外出するのに苦慮している。高齢化が進むエリアが取り残されないよう対応をお願いしたい。	【都市創造部】 地域公共交通計画を策定する中で、移動に関するニーズ調査分析を実施しており、交通不便地における移動支援対策を検討している。
牛谷団地南側の溝の詰まりの対処又は整備をお願いしたい。	【財務部】 溝のつまり等について、今年度中の対応するよう調整している。
天川土手の草刈りについて兵庫県が対応しているとのことだが、市の方でも対応していただけないか。	【上下水道部】 年 2 回、市が県から委託を受けて、草刈りを実施している。
移動支援に関して、社会福祉協議会と共に病院送迎を検討しているが、市から小型バス（バン）の提供をしてもらえないか。	【福祉部】 地域支え合いづくり協議会の中で挙げられた移送支援の課題について、公共交通担当部局と情報共有している。また、公共交通担当部局と協議を行い、移動支援の具体的な

ご意見	現在の状況
	進め方について整理し、流れを整えた。 公共交通計画策定については、庁内委員会にて参画している。
	【都市創造部】 地域公共交通計画を策定する中で、移動に関するニーズ調査分析を実施しており、交通不便地における移動支援対策を検討している。
北浜隧道について、こどもたちが通るのに道が狭い、ガードレールをもう少し頑丈なものにできないか。	【都市創造部】 耐衝撃性の大きいガードレールを設置した場合、歩道あるいは車道の幅員が小さくなる課題がある。これを踏まえて、人、車両が安全に通行できる有効幅員を確保できるガードレールの設置の検討を進めている。 合わせてソフト対策も、通学路合同点検等を実施した中で、引き続き、北浜隧道付近の安全対策に取り組んでいく。

(3) ユーアイ帆っとセンター

ご意見	現在の状況
JR 曾根駅整備のスケジュールについて詳しく聞きたい。	【都市創造部】 令和 7 年夏ごろから南側道路の工事、仮駅舎の建設に着手し、令和 10 年度のできるだけ早い時期の供用開始を目指している。 また、阿弥陀、中筋、曾根、北浜地区の方々に「工事だより」を回覧、高砂市HP、ナビなどを通じて広報に努めている。
物事を進めるにはスケジュールが大事。4 年後は、どこまで進めようとしているか、市長選挙のときに我々が評価できるものを示してもらいたい。 駅周辺に民間企業が出店してこないのは街にポテンシャルがないから。力をつけるのが大事。我々が買い物をしなくなったから商業施設が撤退した。	【生活環境部】 高砂駅前商業施設跡地の整備計画の早期公表・早期着工を強く申し入れている。進展があれば、地元及び関係者に適時報告する。
教育に関して。9 年間でこどもが育つようにしてほしい。高砂は小・中学校が並んでいるだけ。のびのび教室も結局は学校に来なさいと言っているのと同じこと。学校の現場の先生は頑張っている。学校の中に教育の研究所みたいなものを作り、先生をサポートしてあげたらいい。	【教育部】 令和 7 年 2 月に策定した、第 4 期教育振興基本計画では、基本的な方針の一つに「学びと育ちの連続性を踏まえた教育の推進」を掲げ、「小中一貫教育の発展」を主要な取組としている。この計画に従って、義務教育 9 年間の学びと育ちの系統性・連続性を重視して、中学校ブロックの連携を図り、特色ある質の高い教育を行なってまいりたい。
給食費の無償化を進めてほしい。子育て世帯の負担が大きい。	【教育部】 無償化については、国、県に要望している。市としては校舎の老朽化対策など、他の事業にまず予算を割く。国や県の動向を注視していく。
学校以外のさまざまな学びの場について。NPO 法人など地域住民が運営しているフリースクールなどの学びの場について市として支援する予定はないか。	【教育部】 のびのび教室及びサテライト教室で対応している。民間施設との連携については、ガイドラインを策定するなど、研究を進めている。
給食費の無償化より小学校を改修することが大事と仰ったが、食べ物、衣服を買えない人が多く、給食だけがまともな食事とい	【教育部】 色々な考え方があある。高砂市も、給食費は有償だが、中学校の給食センターを整備している。無償化については国、

ご意見	現在の状況
う家庭もある。給食費を無償にするということは大事な政策だと思う。	県に要請していく。今現在高砂市としては給食費無償化は考えていない。 国や県の動向を注視していく。 また、現在低所得世帯に対しては、生活保護や就学援助制度により負担軽減を図っている。
市職員について。資格取得した職員に報奨金を出すのは難しいと思うので、地域手当を上げてあげたらいいい。職員を大事にしてほしい。	【総務部】 令和6年度から職員資格取得助成制度を開始し、助成対象資格を取得した職員に受験料等の助成を行った。 令和7年度においても職員に対して制度の周知を行うことで職員の自己啓発を促進し、能力向上に努める。
公共交通については広域的に検討してほしい。	【都市創造部】 地域公共交通計画を策定する中で、移動に関するニーズ調査分析を実施しており、交通不便地における移動支援対策を検討している。
高砂町民は、はやく買い物ができるところを作してほしいと思っている。明石市はこども関係の政策の手厚さで、こどもが多い。駅周辺を整備したところで、福祉を厚くしないと人は来ない。	【生活環境部】 高砂駅前商業施設跡地の整備計画の早期公表・早期着工を強く申し入れている。進展があれば、地元及び関係者に適時報告する。
高砂は水道代が安いと昔から言われていたのに、どうして今まで耐震化のためのお金を貯めておかなかったのか。	【上下水道部】 これまで下水道の普及や浸水対策事業を最重点施策として行ってきたため水道施設の更新が遅れている。 水道施設の耐震化対策等の事業費を料金算定根拠に入れながら水道料金を決定する仕組みとなっており、水道施設の耐震化を進める投資計画とその財源を確保する財政計画を検討する水道事業経営戦略を令和7年度中に改定見直しする予定である。 その戦略に基づき安全・安心な水を安定的に供給するため、耐震化工事を行い、災害に強い水道管の整備を加速させていく。
高砂市民病院に産婦人科がない。小児科の充実もしてほしい。	【市民病院】 産科については、医師不足から休止としているところである。産婦人科については、ニーズがあると認識しているが、加古川中央市民病院を拠点病院として、大学が東播磨圏域においては医師派遣を集中的に行っている状況から、当院への大学からの医師派遣は難しい状況である。 小児科については、非常勤医師2名により、外来診察は

ご意見	現在の状況
	十分に行える状況である。常勤医師については、産婦人科と同様に当院への医師派遣は難しい状況である。
米田公民館を利用していたが、地域交流センターに移行してから住民票がとれなくなってしまった。住民票をすぐとれるようにしてほしい。	【市民部】 各地区の公民館（市民コーナー）で対応していた証明書発行を集約し、イオン高砂店の市民サービスコーナー開設によって、平日時間外、土日祝日にも対応している。マイナンバーカードを所持している方は、カードを活用してコンビニで取得できる。また、イオン高砂店の市民サービスコーナーでは、市内在住で住民登録があり、外出することが困難で家族の代理申請も困難な75歳以上の高齢者のみの世帯の方などに対して、証明書のお届けサービスを実施している。
市長選に出られたときに、人口10万人都市を目指すと言っていたが、今も10万人にこだわられているか。	【政策部】 全国的に人口が減少している中、人口減少を前提として受け入れた上で、市民が幸福に暮らしていくための方向性を検討したい。 現在、令和8年度から始まる第5次高砂市総合計画後期基本計画の策定を進めているところであるが、後期の計画では人口に過度にこだわるのではなく、幸福感を数値化・可視化したものであるWell-Being指標を活用し、市民の皆さんが幸せに暮らせるまちづくりを進めていく。
宝殿駅に向かう二号線の横断歩道の1か所だけ、歩行者専用の信号機が設置できないと加古川警察に言われた。白杖を使用している知人が困っている。道路の拡幅によって信号機をつけられないか改めて要望したい。	【都市創造部】 県道の拡幅整備時に、県や警察に要請していく。
JR 加古川駅から JR 宝殿駅に回送電車が走っている。あの電車を活用したら人口が増えると思う。	【都市創造部】 令和6年8月にもJRに要望をしたが、対応は難しいとの回答であった。引き続き、JRに要望していく。

(4) 高砂市役所

ご意見	現在の状況
教育について。高砂市では、校区以外の小中学校を選択する選択制については議論されたことがあるか。	【教育部】 他市の状況を鑑み、引き続き検討課題としていく。
学校に行くことがしんどくならないためのケアはまだ着手できていない状況か。特別支援教育がなかなか進んでいない印象。高砂市は学力テストが平均以下であったと聞く。教育大綱や教育振興計画に、特別支援教育についての施策を入れていただけるか。	【教育部】 令和7年2月に策定した第4期教育振興基本計画では、基本的な方針のひとつに、「一人ひとりに応じたきめ細やかな教育の推進」を掲げ、「特別支援教育の充実」を主要な取組にしている。一人ひとりの特性に応じた特別支援教育の充実を図るとともに、特別支援学級と通常の学級との交流及び協働学習を推進して参りたい。
特別支援、不登校に関して。先生が個別に心理士に質問できるような、先生がひとりで抱え込まずチームで対応できるような体制が、特別支援に限らず学校全体に必要なと思う。	【教育部】 令和6年度は県スクールカウンセラーと市カウンセラーを配置し、相談体制の充実に努めた。令和7年度も継続して取り組んでいく。 特別支援教育専門家チーム派遣事業により、令和6年度は6度学校に派遣している。令和7年度も引き続き対応していく。
特別支援教育について具体的な構想はあるか。人材確保や、予算化していただけるかなどお聞きたい。	【教育部】 令和6年度は、スクールアシスタント11名、介助員20名、学校看護師2名を配置した。令和7年度は、スクールアシスタント13名、介助員24名、学校看護師2名を配置している。年長児や小中学生の実態を把握し、今後も適切に予算化していく。
学校給食について。学校給食のメニュー数が減ったり、デザートが軒並み削られたりと聞いている。差額分で子どもたちに美味しいものを食べさせてあげてほしい。また、全国的にもオーガニック給食が進んでくる。視野に入れてもらえたら。	【教育部】 現在も行事食として、オーガニックや地産地消を取り入れた給食を提供している。今後もコスト面等を考えながら検討を進めていきたい。 学校給食の喫食分については、支払っていただいている金額は変わっていないが、高騰分(差額分)は市から補填している。必要カロリーは必ず満たす形で計算しているので安心していただきたい。今後も安全・安心で安定的な給食を提供していく。
オーガニック給食が進まないのは、オーガニック食材が確保できないから。農家にオーガニック食材を作ってもらうためには、	【生活環境部】 オーガニック野菜の栽培を希望する農家に対し補助事業等を説明し慣行農業から有機農業への転換を進めなが

ご意見	現在の状況
自分たちが普段からオーガニックのものを選んでいかなければならない。	ら、市の給食担当、県農業改良普及センター、JA などと連携して、地産地消の推進・定着を目指している。
地球温暖化対策、ゼロカーボンについて。ゼロカーボンに必要なことは、使い捨て文化を減らすこと。エコクリーンピアはりまでのリユース事業を支持している。 市制 70 周年記念のポロシャツについて、意義はわかるが、今年度しか着られず家に眠ってしまったりしないかということが気になった。すでに持っている衣類にワッペンをつけるような方法でもよかったのでは。	【生活環境部】 エコクリーンピアはりまとしては、今後も引き続きベビー用品のリユース事業を始め、リサイクル講座などの環境啓発に努めていく。 【政策部】 ぼっくりんポロシャツは、毎年デザインを変えて職員を中心に自費で共同購入している。 毎年作成しているが、着用はその年限定ではなく、複数年にわたって着用している職員が大半で、市制 70 周年のポロシャツを引き続き着用する職員は多いと考えている。
高砂市民病院再構築のことで。産科医を増やすということを改めて考えてほしい。人口減少につながっていると思う。	【市民病院】 産科については、医師不足から休止としているところである。産婦人科については、ニーズがあると認識しているが、加古川中央市民病院を拠点病院として、大学が東播磨圏域においては医師派遣を集中的に行っている状況から、当院への大学からの医師派遣は難しい状況である。
市長は市民病院の経営赤字が 4 億円を超えたら病院のやり方を考えると仰っていたが今もそうか。前向きな姿勢で頑張るべき。	【政策部】 高砂市民病院将来構想に基づき、引き続き、医師確保をはじめとした経営改善に向けた取り組みを進めている。 医師確保や健診事業など、一部では効果も出ているが、令和 6 年度決算見込みから、経営状況が好転しているとまでは言えない状況であると判断し、将来予測を令和 7 年度に実施することとした。 新病院開院予定年度以降 10 年間の平均基準外繰出金が 4 億円程度に維持できた場合、現状のまま公設公営として運営を続けるが、将来予測において 4 億円程度に維持できなかった場合は、経営形態を見直し、持続可能な経営基盤の確立を目指す。
本屋の誘致を。	【生活環境部】 本屋を含む幅広い業種の出店を促すため、引き続き、創業者融資保証料補助及び利子補給や空き店舗等活用支援事業補助金、キャッシュレス・DX 化支援事業補助金の活用により支援を行っており、情報を発信している。